

授業科目 臨床生理学実習Ⅰ

【担当教員名】 生駒 俊和、非常勤講師 他	対象学年	3	対象学科	臨床
	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	45
【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○			◎
【概要・一般目標：GI0】 臨床生理学Ⅰの知識を基礎に、循環器検査法について技術と心得を習得する。				
【学習目標・行動目標：SBO】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理検査の心得を説明する。 2. 心電図計を操作する。 3. 心電図の判読の流れを説明する。 4. 負荷心電図の波形の変化と注意点を説明する。 5. 心機能検査法を説明する。 6. 心臓超音波装置を操作する。 				
回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1-8	心電図検査1 心電図の記録と整理	1,2	講義・実習	
9-12	心電図検査2 負荷心電図	4	講義・実習	
13-16	心電図検査3 心電図の判読	3	講義・実習	
17-20	心機能検査	5	講義・実習	
21-24	心臓超音波検査	6	講義・実習	
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	臨床検査学講座 生理機能検査学 第3版	大久保 善朗 他	医歯薬出版	2010・6,930円
参考書	臨床工学講座 生体計測装置学	石原 謙	医歯薬出版	2010・4,830円・2010年3月
その他の資料	資料配布			
【評価方法】 レポート(30%)、定期試験(70%)		【履修上の留意点】 臨床生理学Ⅰで学んだことをしっかりと認識して実習に臨むこと。知識が不足している場合は実習に参加できないことがある。積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのレポートを提出することが単位修得の条件である。 参考書は生体計測装置学でレポート作成等に利用して下さい。		